| 科目ナンバリング | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名<br><英訳> | 森里海連環学I ：森・里・海と人のつながり<br>Study on Connectivity of Hills, Humans and Oceans I :Symbiotic Relationship between Human and Nature | | | 担当者所属<br>職名・氏名 | フィールド科学教育研究センター 教授 山下 洋<br>フィールド科学教育研究センター 教授 吉岡 崇仁<br>フィールド科学教育研究センター 教授 徳地 直子<br>学際融合教育研究推進センター 特定准教授 清水 夏樹 | | |
| 群 | 統合科学科目群 | | 分野(分類) | 森里海連環学 | | 使用言語 | 日本語 |
| 旧群 | B群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | 講義（対面授業科目） |
| 開講年度・開講期 | 2024・前期 | 曜時限 | 金4 | 配当学年 | 全回生 | 対象学生 | 全学向 |

**[授業の概要・目的]**

わが国は海に囲まれた森の国である。わが国の自然環境は、森林生態系、沿岸海洋生態系およびその間に位置し人間活動の影響を強く受ける里域生態系により構成されており、これらは河川などを介して相互に不可分に連環している。従来、生態系は個々のユニットごとに研究されてきたが、圧倒的な人間活動のインパクトは、個々の生態系の枠組みを超えて生態系間の循環に大きな影響を与えており、人類の持続的な生存のためには、複合的な自然生態系と人類との共存システムの解明が不可欠である。本科目は、森林から海につながる生態系と人間活動の影響に関する講義を通して、地球環境を「連環」という観点で捉え、森と里と海の連環機構の理解と適正な管理のための「森里海連環学」という新しい学問領域を学ぶ科目である。

**[到達目標]**

・個々の生態系が連環し相互作用する実態とメカニズムを学習し、人間活動による連環の分断の現状とその影響を理解する。
・自然環境と生態系を自然資本と捉え、人類の持続的な発展に資する利用・管理方策を考える力を養う。
・実社会における環境保全活動の実例を学ぶ。

**[授業計画と内容]**

1）ガイダンス「森里海連環学とは」　山下
2）森里海連環学の概要（沿岸域の重要性）　山下
3）川の生態系　山下
4）里海と沿岸域生態系　山下
5）沿岸域に対する陸域の影響　山下
6）日本の森林の特徴と現状　徳地
7）森林生態系の生態系サービスとこれからの森林　徳地
8）森林から川を通じた海への物質移動　徳地
9）環境の価値と生態系サービス　吉岡
10）人間自然相互作用　吉岡
11）森林に関する社会調査事例　吉岡
12）日本の里域生態系と農業・農村　清水
13）森里海の資源と産業振興　清水
14）森里海の資源と暮らしの維持　清水
15）フィードバック（フィードバックの方法は別途連絡）

フィールド科学教育研究センターの教員によりリレー講義を行う。“生態系の連環”は新しい学問であり、受講生との論議等を通して新しい価値観の創造を目指す。講師1名が3－5回の講義を行う予定であり、まず自然科学系の講義として森林、河川、沿岸海域の連環について説明し、後半は里域における環境意識や地域振興などの社会科学系の講義により構成される。NPO法人「森は海の恋

森里海連環学I ：森・里・海と人のつながり(2)へ続く↓↓↓

人」の理事長であり、フィールド科学教育研究センター社会連携教授の畠山重篤氏から、漁民の森づくりなどの現場における社会活動を紹介し受講生と意見交換する予定。

**[履修要件]**

全回生向け。スタート時点では特定の知識は必要ではないが、授業中必要になる知識については、自学自習を求める。

**[成績評価の方法・観点]**

毎講義後に理解度を評価するための小テストを行う。
出席と小テストの成績により最終的な成績を判定する。
期末試験は実施しない。
詳細は初回の授業で説明します。

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

（参考書）
京都大学フィールド科学教育研究センター 『森里海連環学』（京都大学学術出版会）ISBN:978-4-87698-689-7-C3045
京都大学フィールド科学教育研究センター 『森と海をむすぶ川』（京都大学学術出版会）ISBN:978-4-87698-575-3

（関連ＵＲＬ）
http://fserc.kais.kyoto-u.ac.jp/

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業中に別途指示。

**[その他（オフィスアワー等）]**

・環境問題は自然科学にとどまらず、経済、法律、社会と密接に関係します。理系・文系両方の学生の受講を歓迎します。
・夏休み期間中に、本科目と直接関係する森里海連環学実習が開講されます。
・教室の定員を超える場合には履修（人数）制限を行います。無作為抽選により結果をKULASISで発表します。